

## 平成29年度第4回白井市総合計画審議会

日 時：平成29年12月8日（金） 午後3時から

場 所：白井市保健福祉センター2階 検診室2・3

出席者：【委員】 関谷 昇委員、助友 裕子委員、手塚 崇子委員、竹内 正一委員、  
松本 千代子委員、藤田 均委員、近藤 恭子委員、石澤 猛委員  
鈴木 フミ子委員、西飯 峰委員、橋本 哲弥委員、山本 昌弘委員  
12名

〔欠席者〕 山崎 信男委員、中里 敏康委員、野水 俊夫委員 3名

【事務局】 高石企画政策課長、富田主査補、時田主事補

傍聴者：4名

### 1 開会

#### 【事務局】

平成29年度第4回総合計画審議会を開催します。

#### 【会長挨拶】

本日は、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

10月に白井市として初めての外部評価を行いました。いろいろな立場の委員の方々がいらっしゃいますので、多岐に渡るいろいろな角度からの意見を頂戴できたと思っております。

この審議会で出された意見については、市役所内に投げかけて、その後どういう対応になっているかということについては、この後、事務局から説明をいただきますが、今日はまずその概要について、皆様に確認いただくということが、一つ予定されています。

もう一つは、今年度は4施策の外部評価を行いました。残りの施策については、来年度、この審議会でも外部評価することを予定しています。今年度は、初めてのことで、暗中模索というか、どういうふうに進めていけばいいのかという部分で、戸惑う部分もあったかと思えます。また、実際に評価した中で、もっとここを改善したほうが良いとか、こうしたほうがもっとより良い外部評価になるのではないかなど、見えてきた部分もあるかと思えますので、来年度に向けて、外部評価をどういう形にしていけばいいのかということについて、いろいろなご意見等を頂戴できればというふうに思っております。

それでは、どうぞよろしく願いいたします。

### 2 議題

#### （1）外部評価意見及び意見への対応方針について

#### 【会長】

外部評価意見及び意見への対応方針について、事務局から説明をお願いいたします。

## 【事務局】

資料1に基づき説明

## 【会長】

ありがとうございました。総合計画審議会から提出した意見について、庁内でもいろいろ検討いただいて、今の説明を伺う限りでは、基本的にほぼ我々の意見については、今後の活動の中に活かしていくということだと思います。今の報告を踏まえた上で、確認しておきたいことや、ご意見があれば、お願いしたいと思います。

## 【委員】

今日机の上に配布したように、2015年と2060年の人口について、年齢ごとの人数を比較してみました。赤い棒グラフが2060年で、青い棒グラフが2015年です。赤い棒グラフは非常に平均的です。高齢者が当然多くて、90歳以上の方が3,000人以上ということで、今の人数からすると、6倍以上の数になります。

ただ一番、白井でメスを入れておかないといけない部分は、出生率の問題です。出生率は、ちょっとずつ下がっていて、ますます下がるのではないかと懸念しています。特に若い世代の働きやすさや、仕事の問題を考えて、少子化対策をきちんとやっていくことが重要だと思います。

日本全体の中で見ても、最近、少子化対策に取り組んでいるという地域が、例えば日本海側の東北から北陸、それから九州、沖縄です。特に山間地ほど、子どもが多く産まれている所が多いです。多分、都心への通勤時間が長くて、労働時間が長いとか、保育所が足りないとか、病気のときのバックアップシステムがないとか、子どもを産むと仕事を続けられない、また、続けにくくなってきているといった部分があると思います。そういった部分に上手く取り組んでいる自治体は、非常に子育てもしやすく、支援も厚いということになります。ですので、そういった部分に的を絞って、ある程度の資金を投入していったほうが、私は良いのではないかと思います。

日本全体で、年間約100万人以上の高齢者が亡くなっているのですが、高齢者1人当たり大体3,500万円位の遺産があり、年間で見ると35兆円あります。これが、どうのこうのというのではなくて、人口推計からいくと、どこへ力を入れたほうが良いのか。特に白井の場合は北総線が高いから、なかなか外から入ってきにくい部分があるかと思っています。そこで、近隣市でも、子育て支援や少子化対策をしている地域があるように、白井として、平均的な資金の投入ではなく、そういう所に目を向けないと、無理じゃないかなと私は感じています。

## 【会長】

ありがとうございます。今回も重点戦略ということで、若い世代定住プロジェクトのうち二つの施策を評価対象にして、皆さんからご意見等を頂戴したところですけども、今、改めて全体の中でも特に子育て支援に力を入れていかないといけないので

はないかというご意見でした。出していただいた資料は、40年後にどんな人口比率になっているかという推計ですが、今とは根本的に変わってくるということを見通した上で、もっと子育て支援に力を入れていくべきではないかというご意見かと思えます。そのことについて、他の委員の皆さんから何かご意見がありましたら、お願いします。

**【委員】**

全くおっしゃるとおりではあるのですが、日本全体で少子化が進み、2010年から人口は減少しています。このデータは移民政策とかが変わらない限り、変わらないと思えます。ですので、そこにだけ注力しても、どうなのかなという部分があって、母数として増えない中で、白井市が頑張っても、例えば印西市のように白井市より財政状況がいい自治体はもっと頑張るといったことになるのではないのでしょうか。

**【委員】**

今の意見について、印西市は非常に商業物件を持っていて、2060年になったときにその物件がどうなるかということを、私は経験的に予測しています。多分、空き物件がたくさん出て、大変でしょう。だから、今を見ていると、多分気づかない部分がいっぱいあると思うのですが、日本全体の人口が2060年に8,000万人になったときに白井が生き残る方法、方策は何ですかということだと私は思っています。

**【委員】**

若い世代定住プロジェクトという部分で言うと、例えば、拠点創造プロジェクトと関連していて、そういうつながりをピンポイントでやらなければいけないということも分かるのですが、お年を召している方々の政策がおろそかになってもいけないと思えます。

**【委員】**

多分そういう今の発想の中でやっていくと、そのとき白井市はないのではないかと感じています。

**【委員】**

すごく学びの多い示唆を今、得ているところなのですが、少子化対策というのは、確かにこういう人口構成を見たときに重要なことと思いつつも、何か今、社会の方向は、少子化対策というよりも、格差対策に向いているのかなという気がします。例えば、10年以上前にノーベル賞をとられたアマルティア・センが不平等の再検討という本を出されているのですが、それを見ると、いかに平等平等と言っていることによって、格差を受けている集団がいるかという部分にもっと目を向ける必要があると思うのです。裕福な方たちは、選択肢もたくさんあって、それで白井に住むかもしれないし、迷わないかもしれない。そうではない集団の中で子育て世代にある層をいかにピックアップして、施策を展開していくかということが、公助なのではないのかなという気が

します。ですから、そういうことを考えていくと、全ての施策に、そういった格差を受けやすい集団が、きっと生まれているはずなので、そういう部分をもっと分野横断的にやっていく必要があるのかなと思います。

## 【委員】

日本の人口はピークを越えていて、今後8,000万人になったときに、実際どうなるかというイメージ的なものについて、皆さん実感が湧いていない状況だと思います。現状では、その頃に自分たちの生活形態がどうなっているか、仕事がどうなっているかというイメージが湧いていないから、子どもたちにも伝えられない部分があります。30年後、40年後、50年後となると、AIとかでロボット化されているので、仕事の内容が、全て変わっている可能性があるかと思います。

そういったところで、今、中学生、高校生でも、夢がある子どもたちがどれだけいるかということを見ると、20歳、30歳ぐらいになったときに、どういった仕事をしたらいいのだろうといった希望を持っていない子どもも多いということもあるかと思います。

白井市で、そういった子どもたちを育てていくには、どういうことをしていったらいいのだろうと。行政に任せるだけでなく、我々、一般市民レベルでも真剣に考えていかないと、本当に白井がなくなってしまう可能性もあるのだと思います。千葉県でも人口過疎化という自治体が、既に出てきているわけで、そうならないためには、ゆとりある暮らしを支えるまちづくりや、子育てしたくなるまちづくりなど全て関わってくると思います。

また、白井市では農業も非常に大事ですので、農家も新しい作物などを一生懸命考えていかないといけないし、自分たちが持っている専門知識を白井市にどう生かしていくかということをもっと真剣に考えていかないといけないと思います。そうでなければ、私は、自分でできるのであれば、もう自分でやって新しいものを発見していくしかないのかなとも思っています。そうしないと、本当に白井市自体がなくなってしまうので、本当に、前向きに考えるべきだし、何をやったらいいかというのを真剣に考えていかないといけないと思います。

それほどお金をかけずに人を集める方法も必ずあるし、そういうきっかけづくりをやっていけば、必ず集まると思います。スーパー、空き地、公園などを活かして、若い人たちもここだったら定住できて、本当に楽しめて、隣近所のつながりもあって、安心して住みやすいまちだというふうになれば、我々にとっても、すごくいいことだと思います。

今、皆さんは気持ち的にあまり余裕がなくて、小学校区単位でのまちづくり協議会についても、これから意見交換をいろいろ進めるわけですがけれども、各団体の代表の方をお呼びしても、代表の方から組織の皆さんにどれだけ話ができるのかということ

があって、本当に自治会やいろいろな団体の方が入って、情報交換できるような形をとっていかないと、いつまで経っても、計画で終わってしまうのかなと感じています。

#### 【委員】

多少ずれてしまうかもしれないのですが、人口構造や仕事が変わって、これからどうなっていくか分からないということを考えると、やはり人として生き抜く力、やり抜く力が、一番これから求められると思っています。その中で今、白井ができることは、今、眠っている財産やモノを洗い出して、それを横につなげていくということが重要ではないかと考えています。

いろいろな分野の人と会ったら、一緒に何か協力できることも、実は結構あると思います。それは外に出て行って、いろいろな分野の人と話をしないと、そのヒントは得られないというふうに考えていて、例えば、そういう場所を最初は市役所が中心になって提供して、そこをつなぐ役割ができれば、あとは協力し合える方たちが市民の眠っている力や、白井が持っている魅力をお互いに積み重ねて行って、積み上げていくようなシステムをつくっていけば良いのだと思います。そうすると、他市とは違うものができて、せっかく自分がいろいろな人と関わってつくり上げたこの場所に住みたいという気持ちにもつながっていくのではないかと思います。

実は私、以前、白井の子ども食堂に行ったことがあって、そのときに感じたのは、他の市町村はもっと市役所と連携しているのに、白井は連携が弱いなと思いました。子ども食堂をつくったことはとても大事ですが、そこがどんな役割なのか、どんなことをビジョンにするのかということを考えないで、つくっても意味がないし、本当はもっとできる役割があるはずなのに、担えていないし、協力者も得られていないのではないかと。せっかくつくるのであれば、例えば困っている方、母子世帯、障害があるお子さんなど、いろいろな方に、まず声をかけておいて、その人たち以外にもいろいろな方が集まって話ができたり、母子保健推進委員や社会福祉協議会の方とつながりという形をとれば、一つの場所がたくさんの連携につながっていくと思います。ですので、もう少し、つなぐまでの立ち上げに市役所の方が関わって、それが一つのモデルとして成功すれば、次につながるといようにしたほうが良いのではないかと思います。

#### 【委員】

私も何回か子ども食堂にお邪魔させていただいたのですが、本当にどういう人が食べに来ているのか、なぜ子ども食堂があるのかという根本的な部分が大切ではないかと思っています。まずは、貧困の子どもたち、食事ができない子どもたちがどれだけいるかという統計をこれからきちんと調べて対応していく必要があるでしょうし、また、そういったことを白井はきちんとできているというようになれば、お子さんのいる家庭は白井市ってそういう部分もしっかりしているから住みやすいよねという方向にも

つながっていくのかなと感じます。

また、今、言われたように、そういったことをコミュニケーションできるような場にしていけば、更に良いのかなと、同じように感じさせていただきました。

全体的に見ていると、本当に、安心、安全で住みやすい白井市だよねと誇れる形ができるということを、この場で提案していければいいかなと思います。

#### 【会長】

どう白井にある魅力を膨らませていけるか、磨いていけるかということが、非常に大事になってくるということは、かなり共通している部分です。

#### 【委員】

私は白井が持っている財産はいっぱいあると思いますが、市民まで浸透していないと思います。例えば、里山と言っても、白井のどこにあるのか知らないということです。

私は、防災にずっと携わっていますが、最近では、白井に防災はいらないと思い始めました。農家があるので、もしお米が足りなかったら、農家に電話して、ちょっと声をかければ手に入るし、野菜も手に入ります。水も、各農家が手で持ち上げる10メートルぐらいの井戸を持っています。だから、我々が持っていればいいのは、それを大量に仕込む鍋やお釜、発電機です。それを持っていれば、備蓄という意味の防災用品は要らないと思います。

#### 【会長】

基本的には、皆さんがおっしゃるとおりで、一つは白井にどんな資源があるのかということをもっと掘り下げていくということで、資源の共有、資源の活用ということは、どこでも言っていますが、どういう資源があって、そこにどんな可能性があるのかという深堀が、実はできているようで、できていないという部分がありますので、そこを徹底させていくということは一つ言えると思います。

ちょっと逆のことで申し上げますと、これは40年後の人口で、40年後にどうなっているのかを客観的なデータとして捉えていくということです。例えば、税収はどれぐらいになっているのか、今提供できている行政サービスがどれぐらいになるのかというイメージを職員も市民も共有していないのです。だから、根本的に減ってしまうことによって、何がどうなるのかということをもっと共有しないと、危機意識も出てこないし、資源をしっかりと捉えていこうという話にもなっていないのだと思います。

もっと違った形で言えば、皆さんがお住まいのマンションや戸建て住宅で、近所がすかすかになっていくということです。近所がすかすかになっていくというのは、どういうことかというイメージを膨らませて、例えば都市計画の中では、少しずつコンパクトシティにしていくとか、例えば長期的に宅地開発のあり方を変えていくとか、徐々に人口をコンパクトに集約していくと。ただ1カ所に集中させるというよりは、

例えば、学区単位ぐらいで、それぞれコンパクトな拠点をつくっていくとか、長期的にはそういうことを考えていくということが問われます。

ですので、今、持っているものが、今後40年後にどうなるのかということは、もっとデータとしてあぶり出していきながら、今との違いということイメージしていただくことはすごく問われてくるかと思います。

もっと言ってしまうえば、私は、これからそれぞれのまちが、魅力をどういうふうに出していけばいいのかといったときに、今、多くの自治体で考えられているのは、人口が減るから人口を増やさなければいけないという発想です。人口減少だから、若い世代の人口の奪い合いが始まっている。これはどう考えたって無理です。物理的には、数十年は減っていかざるを得ないと思います。東北のように人口が減っていく所から、もっとこっちに引っ越してきてもらうという話をする人だって、これから多分どんどん出てくるでしょう。本当に増やさなきゃいけないという発想でいくのだったら、そこまでやって、奪い合いの先陣を切るという考え方も一つはあるのでしょうかけれども、私は、逆の発想です。

小さくなるのが、もう不可避だとするならば、小さくなるなりに、むしろどういう魅力を注いでいけるかということだと思います。つまりサイズダウンということは、免れないわけですから、逆に、こういうふうになくなるのだというところに魅力を出していくということ。白井もこれから物理的にいろいろな意味で小さくなっていかなきゃいけないので、量が減っていかなくてはいけないというときの価値観の置きどころです。量を増やしていく、拡大していくという価値基準に立脚している限りは、もう空回りしていただけなのかなと思います。逆に小さくなっていくとするならば、どう小さくなるかというところに魅力をつくっていくことが大切だと思います。

例えば、先ほどから出ている子育てということにしても、高齢者支援ということにしても、小さくなる中でどんなことができるかといった意味での支え合いや分野横断ということは当然問われてくるでしょう。例えば、今、小学校区単位でまちづくりをやっていこうという中で、小さくなるということは別に悪いことではなくて、むしろそこにいろいろな魅力を込めていけるといったときに、例えば第一小学校区だったら、第一小学校区なりにどんどん小さくなっていく中で、どんな魅力をつくり出していけるのかということです。これまでは、大きくなることを前提にしてきたので、小さくなる魅力のつくり方は、実は、考えてきていません。だから逆に小さくなっていく中で、小さくなることによってできることは何かというと、その地域の物的な資源、人間関係を活かして、より本格的な支え合いというのをつくっていくということです。今は、まだ本当の支え合いってどういうことなのかということが膨らんでいない状況ですが、物理的にこれからは本当に支え合いでやっていくしかないのです。であるならば、白井は、こんなコンパクトなまちづくりの中で、これだけ密度のある関係の網

の目、支え合いの網の目をつくっていて、これは子育て、高齢者といった分野別という話ではなくて、そこをもっと一体化して、もっと密度の高い人間関係を構築、維持できているのが白井だということ、これから謳っていくことができるならば、これは相当の魅力なのかなと思います。これは、放っておいてできることではないから、つくっていくしかないわけで、しかも、すぐにできることではないから、本当にこれから40年かけて、小さくなるなり方の中で、例えば密度の高い関係性をつくっていくかどうか、あるいは、経済活動一つをとって、グローバル市場に参入していくのも結構ですが、もっと小さい領域の中で、やれる経済のあり方ということも実は、かなり考え得るところで、そういうものを白井だったら白井なりに考えていくということが問われているのかなと思います。

同時に、もう一つ問われてくるのは、白井だけで自己完結するというのは難しくなってくるとするならば、もう少し広域的な中で連携というものをどうしていくのかという部分も問われてきます。多分、このままいったら、第2の合併という時代がまた来ると思います。つまり、平成の大合併が今、一段落して、もう間もなく平成も終わりますが、当然このままいけば、自助努力をしない自治体は、間違いなく長い目で見れば破綻していくので、国から、合併してどこかに救ってもらいなさいというトップダウンでの話が出てくるでしょう。そうすると、もう魅力あるまちづくりなんかできないと思います。

そういう意味では、今のうちから、そういうまちづくりを膨らませて、白井でできることは、もちろん磨きをかけていって、できないことは、もっと広域的に取り組んでいくということが必要です。広域的の範囲がどれくらいかは、いろいろな戦略の立て方がありますけれども、そういう長期的な眼差しというものは、ぜひ持っておくべきで、市役所も長いスパンでのまちづくりということを考えなくてははいけません。今、どこでも考えていないわけですが、そういう長期的な方向性も考えた上での歩みを進めていくということは必要かなと思います。

## 【委員】

対応方針にモデル的な取り組みと書いてあるのが、1ページと5ページです。今のことを考えると、基本計画の44ページで一番、横断する分野が多いのが、3-2-2ですので、ここをモデル的に取り組むと、分野横断という力が、市としては一番つくのではないのでしょうか。

もう1個のモデル的な取り組みが、まちづくり協議会の設立ということですので、この二つを連動してモデル的に取り組んでいくと、共助が中心になったモデルづくりというのが一つできるのかなと直感しています。私もそうなのですが、まちづくり協議会ということに特に実感がなくて、自分にとって、どういう意味なのかという実感がなくて、本当にそれを進めていくことがどうなのかなと。白井は、新しい人が多



いから、市民意識が低いです。それを放っておくと、市がサービスプロバイダーで、我々が受給者、消費者というマインドがなくなってしまう、いろいろ危機的なことが起こっていくわけです。なので、そのモデルをつくるにしても、例えば私は富士地区ですが、富士地区という文脈ではどういうことなのかというのを、データによって可視化していく必要があると思います。

私、職業柄、開発途上国のコミュニティ開発に関わっていて、例えばここが村だとすると、初めに必ずマッピングをやります。どこに何があって、誰がいて、この地域にはどういうリソースがあるのかということを確認します。あと最近、長野で自治体の方とやったのは、ある地域のマッピングをして、お年寄りの世帯にシールを張って、約30年後にどうなるかというシールも張っていくと、皆、結構唖然とされました。こういうデータが、自分たちのこととして、こういうことなのだという啓発を、市役所や、それができる方をつかまえて、やっていくといいのかなと思いました。

モデル小学校区をつくっていくにしても、普通に問いかけたのでは食いついてこない、市民の方がそこに参加せざるを得ないようなことが必要です。結構、防災とか、子どもとか、興味が深い部分をつなげて、その措置としてまちづくり協議会はこんなに大事ですという形にしていけないといけません。そして、そこでマッピングしてみましようとかいうことを、職員の方がやられなくても、まちづくりNGOにお願いするなどして、何か1個つくれないかなと思います。

あと、富士地区は、歴史があって古い所です。富士地区の長老の方にお話を聞いたら、自分で道をつくったというのです。道普請をしたと言っていました。富士センターは地区の住民で運営されていて、これは富士地区だけです。だからそういう所をモデルに選んで、もう一つは全然違う所、もっと新しい所をモデルに選んで、比較するなど、何かやりようがあるかと思います。

## 【会長】

先ほど白井にある資源を徹底的に可視化していくということを申し上げましたが、もう一つが、まさに今、おっしゃったことで、人口の問題にしても、その他の問題にしても、もっと身近な所でどうなっているかということです。さっきも40年後の皆さんの地域は、もうすかすかになっているということを申し上げましたが、すかすかになるということが、具体的に自分の住んでいる所でどうなるのかということです。ここは少なくともデータとしては出せるわけなので、それを踏まえた上で、今のうちから何をしていかなければいけないのかということを考えていけるかどうかです。これはまちづくりのベースに関わることだし、この戦略3の拠点創造プロジェクトの地域拠点というのは、私のイメージの中では、全部の分野に通底する横串しであって、どんなことをやるにせよ、地域をどう捉えていくのかということが非常に大事なことで、そういう情報も含めて共有した中で、何をしていかなければいけないのかということ

をもっと本格的に考えていくということが重要だと思います。

武蔵野市が、コミュニティカルテをつくっていることをご存じですか。つまりお医者さんが診断をして、カルテをつくって、そのカルテをずっと蓄積していくと、その人がどんな病歴を持っているのか、どんな健康状態なのかということが分かるといったカルテを地域単位でつくっています。その地域には、どういう物的資源があるのか、人的資源があるのかということを一回洗い出してみても、それが40年後、どうなるのかということ予測してみる中で、今からどんな地域づくりをしなければいけないのかという共通認識を強く持つておく必要があるかなと思います。

**【委員】**

会長が言われたとおりだと思っていて、私も富士地区で自治会に携わっているので、今、お話されたことを自治会にも持っていこうかなと思っています。

富士地区なら富士地区で、何が一番いいのかを掘り起こしていきたいと思います。今、年1回、防災訓練を小学校区でやっているのですが、防災訓練ばかりで良いのかというふうに感じています。支部会が1年間、防災訓練に費やしていいものなのかというのもあるって、今年度の防災訓練は終わったので、1月から、その辺をもっと強調していこうかなと思います。

**【委員】**

お年寄りが多い地域ですよ。

**【委員】**

そうですね。富士地区は掘り起こせばいいものが結構あると思うので、しっかりやっていければと思います。

**【委員】**

富士地区は道路事情が悪いです。風間街道に道路が突き抜けてなくて、途中でとまっているのです。両方から入るけれども、合わさっていないという面で、抜け道がないのです。だから、大山口中学校へ自転車通学している子どもは、風間街道を通るわけです。歩道もないので、危ないです。

**【委員】**

この審議会ですべて提案していく、または、決定したことをどういうふうに市役所に持っていくのか、まだ100%把握できていない部分もありますが、本当にせっかく集まっているわけですから、答えをきちっと出していけるような形をとって、生かしていかないともったいないという点があります。

**【会長】**

今日、いろいろご意見いただいたように、どうしても行政の場合では、スパンを区切って計画を立てて、施策を回していくという部分がありますが、是非、この審議会では、40年後というスパンの中で、本当にどうしていかなければいけないのかとい

うご意見をどんどん出して、ある種の危機意識をあおっていくということも含めてやっていくことが、非常に大事かと思えます。今日も非常にいいご意見をいただいたのかなというふうに思えます。

それでは、我々の意見に対する市の対応方針については、我々の意見をかなり正面から受け止めていただいたということを確認いただきましたので、これが2年後にどんなふうになっているのかということについて、また外部評価したいと思えます。

## **(2) 今後の行政評価について**

### **【会長】**

今後の行政評価について、事務局から説明をお願いします。

### **【事務局】**

資料2に基づき説明

### **【会長】**

今年度、皆さんに評価をしていただきましたが、ヒアリング当日の時間配分や、説明のあり方、担当職員とのやりとりのあり方について、今、事務局から指摘があったように、ちょっと時間が足りなかったという部分もありますし、施策評価シートを中心に評価していただいたわけですが、この資料のあり方等も含めて、お気づきになった点があれば、ランダムで構いませんので、ご意見をいただければと思います。

### **【委員】**

どれだけの予算をかけてということが分からなくて、個々にとても良い事業でも、そんなに大きな予算をかけていない部分もあるのではないかと思います。

### **【会長】**

それは、どれぐらいの事業規模で回しているのかということと、全体の中でどれぐらいのウエイトのある事業なのかということが、ちょっと分かりづらいということかと思いますが、事務局から何かありますか。

### **【事務局】**

資料2の16ページで、事業別予算については、各事務事業評価シートの金額を出させていただいているのですが、今、会長がおっしゃったように、全体の中のパーセンテージは出ていない状況です。その辺りでこうしたほうが見やすいとか、こういう費用があったほうがいいのかあればお願いしたいと思えます。

### **【会長】**

白井は、財政白書市民版みたいなものはつくってないでしょうか。白書まではいかないにしても、簡単に、大体どの分野にどのぐらいのというのはあるのでしょうか。

### **【事務局】**

全体のうち、どの分野にどのぐらいという資料はありますので、お示しできます。

**【委員】**

施策の議論をして、総括として会長からおおむね良好ですか、いいですかという形が連続してしまったので、何か別の評価方法はないのかなと思います。

**【委員】**

今のご意見を受けて、私もそれを思っていて、実際に全体で聞いた後に評価として、ちゃんと点数をつけるというのが大事かと思っています。どういう指標で点数をつければいいのか分かりませんが、一定の評価基準で点数化をして、私たちが個人個人で評価したものを最終的に合算したり、平均値をとったりして、それが何点以上だと標準だとか、進んでいるとか、進んでないとか、もう少し努力が必要だということができればいいのかなと思います。

あと、先ほどの連携という部分を評価に必ず入れていただきたいと思っています。質問に対して連携していると回答しているけれども、本当に連携しているのかというのが、正直多い気がするので、できれば実際話を聞いた感じを加えられると、時間をかけて皆さんで外部評価をやっている意味もあるのかなと感じました。

**【会長】**

今年度は、評価の形をどう出すかということは、余り詰められていない部分がありましたので、あのような形にはなってしまいましたが、ご指摘のとおりで、もちろん結論としてはどうかということもありますし、個別の項目ごとに点数化していくということもあるかと思っています。そうすると、個々の委員が、それぞれ何点をつけるのかということで、個々の委員の評価が出てきますし、それを踏まえた上で、全体としてどんな結果になったのかということも、また明らかにすることができるかと思っています。

**【委員】**

ちょっと点数をつけるというのは、やめたほうがいいと思います。もう学校で散々やってきているから、絶対だめだと思います。人をそういう点数で評価するというのは、だめだと思っています。

**【委員】**

点数は置いておいたとして、最後のまとめの方法としては、おおむね良好ですか、検討ですかといった3択みたいな評価で、我々の委員としての意味があるのかというのが疑問でした。あの忙しい日程の中で、会長も本当に苦し紛れだと分かったのですが、そうじゃなくて、この議論は、そんな一言で済むはずではないと思うのです。3択、4択で決まっていいいのかというのは感想としてありますので、点数は、今後、検討の余地があるかもしれませんが、議論が次に活かされるようなまとめ方というのは、今後、この審議会として検討しなければいけないことだと思います。1次評価、2次評価とどこが違うのだろうかとなってしまいますので、我々の審議会としての意見集約の仕方、まとめ方というのは、大事かなと思います。

## 【会長】

評価の仕方ということで、今年度はいろいろな意見を出していただいて、ある程度集約したものを意見としてまとめて、ややつけ足し的に順調かどうかという形で出さざるを得ませんでした。今出ている意見としては、とにかくどういう形で評価ということをして市役所に伝えるのかということ、一つは点数化をしながら、客観的に評価をあぶり出したほうが良いということと、今、ご指摘のように、点数がどうかはともかく、個々の委員が、まずどういう評価をしているのかということをはっきりとすることです。自分の意見がどこまで、ちゃんと明らかになっているのかどうかという部分が、必ずしもクリアじゃないという部分もあるかと思しますので、ここで、今しっかりと評価をして、それを全体でどう取りまとめるのかということを含めて、もう少しご意見をいただきたいと思っております。

## 【委員】

恐らく点数化は、極端な例だとは思いますが、客観的に評価をしましょうという意味だと思います。それで、例えば、何で評価するのかということ、学校で通信簿をもらってきたとしたら、次はどういうふうにしたらいいのだろうと考えることがありますよね。それと一緒に、取り組みを具体的に考えられるような評価をするということが、本来の目的だと思います。

そうすると、この評価を受けて、どういう取り組みをするかといったときに、取り組みには、必ず対象となる集団がいるはずで、それが、さきほどから「格差を受ける集団」というふうには、例えば表現しているわけです。施策によって必ず影響を受ける集団がいるはずで、実は、取り組んでいる人たちが、気づいていない集団がいるのではないかとこの部分があるかと思うのです。ですので、必ず、この施策によってどういう集団が影響を受けているのかという部分をしっかりと洗い出して、その上で、財産を云々という話につながってくるのだと思っております。影響評価をしっかりとやる必要があるかと思うのです。

例えば影響評価というと、日本の中では、環境影響評価があります。これからスーパーをここに建てましょうといったときに、地域にどのような影響があるかを、事前に良い面も悪い面も予測評価して、施策を最適化した上で、スーパーを建てましょうというような手法です。例えば白井市総合計画の基本理念を見ると、安心、健康、快適とあって、快適という部分は環境の影響を評価しましょうという意味に通ずる理念なのかなとも思いますし、健康という意味では、健康影響評価というものがございませぬ。単一の分野だけで、人の健康に影響を及ぼすというのは無理があるというWHOの反省から生まれてきた手法です。例えば、健康づくりの教室を実施した時に、そこに参加する集団もいれば、参加しない集団もいます。例えば、近所にヘルシーなスーパーマーケットが建って、そこを利用する人は良いけれども、そこから遠い人たちは

利用することができないというように、いろいろな取り組みが市民の健康に影響しているわけです。このように、影響集団を同定して、その人たちにマイナスの影響があれば、それをさらにブラッシュアップして、最小限のマイナスの影響になるようにして、プラスの影響があれば、もっといい施策にして、取り組みを推進していきましようというように、具体的に集団を同定するという作業が、施策の最適化につながっていくと思います。恐らく外部評価意見全体に共通する庁内横断的な連携という部分は、担当者が、果たしてそういう影響集団にどのくらい気づいているかということでもあります。ですから、そういった一定の手法が確立されたツールを用いて、モデル的な取り組みを評価していくということも、次のステップとして重要ではないかなと思っています。ちょっと抽象的でしたら補足したいと思います。

#### 【会長】

影響集団を同定するという一方で、それを多角的に見出していくということは、もちろんできると思いますけれども、同時に指標も立てるといふことなのですか。

#### 【委員】

指標は立てても立てなくてもいいです。例えば、武蔵野市のある地域で、防災に関わっている人たちと一緒に、自分たちの活動がどれくらい地域に影響を及ぼしているのかという影響評価を行いました。そうすると、ご高齢の方は、自分たちにはプラスだおっしゃる人もいるし、若いPTAのお母さんたちは、防災訓練の机上訓練をやっている間、うちの子どもたちは家で1人よという声があったりします。でも、いろいろな人たちがその取り組みに対して、評価をしているわけですので、しっかりと意見集約をして、合意形成して、政策をブラッシュアップしていくことで、その地域や取り組みに対する愛着も出てくるということも、諸外国の取り組みでは確認はされたりしています。今、具体的なものを出せないの、抽象的で申しわけないのですが、ある一定の確立された方法論で評価をしていくということだと思っています。

#### 【委員】

もし点数が無理であれば、施策ごとに、例えば10個の視点などをつくって、それについて、例えば普通であるとか、もう少しだというように、それぞれの委員が感じたところで、該当するものに○をつけるというやり方もできるのではないかと思います。そして、それぞれの委員が今どう思ったかということを出し合って集計して、他の人の意見を聞いて、また修正するということもあり得ると思いますので、そういうやり方も一つの案としてお伝えしたいと思います。

#### 【委員】

今の意見に賛成で、率直に言って、一つの施策を評価するに当たって、例えば子育てしたくなるまちづくりとあった場合に、これに関して、細かい取組内容があって、その中で自分としては、例えば医療費のことは良いと思うけれども、その他の部分に

については、ちょっと考えるところがあるといったような部分があります。それを全体としてどうですかと言われてしまうと、どのように評価をしたらいいのか難しかったです。細かく分けていただいたほうが、いろいろな視点から見ることができるので良いというふうに受けました。

#### 【委員】

評価は大事なのですが、評価にコストがかかることは避けたほうがいいと思っています、評価でわざわざ人を雇う予算があったら、他のものに回したほうがいいと思います。施策単位ではなくて、取り組み1個ずつにして、もうちょっと指標を増やして、我々が判断できるようにしたほうが良いと思います。今回情報が足りなかったと思うので、それをちゃんと揃えていただいて、コストという部分では、1から10だったら7ぐらいというようなスパイダーチャートをつくってあげれば、我々ができるツールで、お金がかからず、もうちょっと客観的な評価が上がってきて、それを比較したときに、本当にここは足りないよねというのが見えてきて、来年はそこをやりましょうというように、利害・関心というのを超えて、私たち一人一人が評価して、それを足し合わせたら、こういうことになりましたと言っていけるかなと思います。

あと、もう一つすごく気になることが、外部評価という表現です。私たちは市民で、この中に外部の方は多分3人だけだと思いますが、これは外部評価なのかというのが気になります。この前のやり方だと、私たちがここはできていませんよと言って、市の方々がいやいやといったように、評価する側と評価される側が、ものすごく分かれていて、これは何とかならないかなと思いました。市の職員の方ももちろん、深層心理では、仕事を増やしたくないわけで、説明して言い切れる部分は言い切るというふうになってしまうと、そもそも、ここで白井市を良くするために言っているのに、サービスプロバイダーとサービスを受ける側という構造が生まれてしまうので、そこを何とかしたほうが良いのではないかと思います。もう少しワークショップ形式にして、ペタペタ紙を張って行って、和やかにできないのかなと思いました。

#### 【委員】

そういうある意味分かり合えるというか、こちらが言いたいことが何なのか、別にやれやれということではなくて、そこをやってくださっているなら、ここをやったら、他の取り組みとつながるといなのが、あぶり出せるということですよ。

#### 【委員】

あと、これをやってよねと私たちが言っていたら、何かモードがいつまでも変わらないじゃないですか。だから、公助が足りないのを市民が指摘してというのは、予算が潤沢にあるときの市民社会のあり方であって、今は、それではだめですよというのが、行政経営指針にあります。だから、これをベースにして、どう縮めていくのかというのを話し合う新しい評価、もう少し参加型評価にならないかなというふうに思い

ます。

あと今回、評価しましたが、委員の中でも一個一個、興味や関心が違っていて、この取り組みだったら、ちょっとモデル的にやってみたいという部分もあるかと思うので、実際に、市の方と一緒に1個ぐらい取り組んでみてもいいかなと思います。実際やってみたらこうだねという何かリアルな習得がないまま、こういう場が積み重なっても、余り意味がないかなと思いました。

### 【会長】

整理すると、一つは、評価の仕組みの部分をどうするのかということで、もう少し細かく評価できると良いということです。施策単位のほうが、事業単位よりは望ましいというのが一方ではありますが、ただ、実際評価をするときには、もっと細かく評価をしていかないと、なかなか評価しづらいということで、細かく評価をして、どういう部分が上手くいっているのか、いっていないのかということをはっきりとできる評価の形にすべきだということです。

もう一つは、外部評価という言い方ですが、内部評価に対して、市役所の外側の人たちに評価をしてもらうというのが、一般的に外部評価と言われるところで、市民から専門家まで含めて、いろいろな人たちから構成されるものになっています。今の議論のもう一つのポイントは、評価というのは、ちゃんとできているか、できていないかという形だけではなくて、イメージ的にはワークショップのような形で、できているか、できていないかのチェックもさることながら、もっといろいろな可能性を一緒に探っていくという意味合いの評価であっても良いのではないかということです。実際にそのように評価している所もあると思うのですが、例えば審議会のメンバーを数人ずつ幾つかのグループに分けて、分野ごとに、担当者ともっと詰めた話し合いをした上で、もう一回全体でそれを共有するというふうなこともあり得るかと思います。ただ、そうすると1日では終わらないので、その辺は工夫等が必要になってくるのかもしれませんが、イメージ的に、できている、できていないというチェックだけではなくて、我々としても、もっと建設的に意見を出していけるような、そういう外部評価もありじゃないかということです。

### 【委員】

今、おっしゃられたことに本当に同感なのですが、本当に理想だと思います。ワークショップや小集団で、私たちも評価して、行政の方と一緒に方向性を考えるところまで行けるといい評価になります。でも、それをやるには時間が大変です。事務局の方に、また負担をかけてしまうので、どこかで折り合いをつけるしかないと思います。ただ、この前みたいなやり方だと、実際、議会と何が違うのかということがあります。部長さんたちが、当たりさわりのない答弁をされていて、あれっと思うときがあったのですが、そこまで言えないので、我々のこの審議会の位置づけというのを、もう一



回考え直してもいいのかなというように思いました。

#### 【会長】

内部では、やっぱり議会と同じように緊張感をもって望まれた部分があるかもしれませんが。

#### 【事務局】

正直なところ、今回は質問と回答というヒアリングで終わってしまったかなという感があります。先ほど議題1で委員同士で意見交換をして、いろいろな方向性を持ち寄っていただきましたが、そういう形が本来良いのではないかとということで、ディスカッションの時間をもう少し充実したほうが良いと思っています。また、評価のまとめの部分は、2次評価での分類に基づいて、委員の皆さんの意見をまとめるという形で今回はさせていただきましたが、今、いろいろな良い意見をいただきましたので、また他市の事例なども参考にしながら、ご提案できればと思います。

もう一つ事実として、スケジューリングがかなり厳しいということがあります。部長職を集めることは大変なので、来年度ワークショップ形式で実施するならば、その辺も全然違う視点から考えないと難しいと考えています。

#### 【会長】

職員の方も、どんな違った見方、考え方、やり方があるのかということを知りたいという部分もあると思いますし、今回は、委員の中で議論していることで、いろいろ参考になる部分はかなりあったのかなと思います。これが、例えばワークショップ的なやり方が可能であるのであれば、もっといろいろな意見を出し合っていくということもできると思います。評価ではあるのだけれども、ただ単に評価のための評価というよりは、次につながっていくような、もうちょっと建設的にいろいろなことを出し合えるような側面というのも、是非持たせたほうが良いのではないかとということで、非常に大事なご意見かと思っています。

#### 【委員】

今年度評価した施策については、こちら少し理解できましたが、来年度また違う施策を評価するとなると、今、せっかくここまで来たものが、もったいない気もします。もちろん全部を評価しないといけないのは分かっているのですが、今年度評価したものを、更に見ていく方が本当は実りがあるのかなと思いました。新しい施策を評価するとなると、またゼロから始まって、同じような所で終わってしまったら、今後につながっていかないのではないかと思います。ですので、やり方もそうですが、施策をどれにするかも、全体として3年の間に考えていかないといけないのではないかなと感じました。

#### 【会長】

評価というのは、定期的にやるわけですが、今のご意見は、その後、更にどうい

ふうに膨らませていくのかということ、施策を回していく中で、また別途、一緒に考えていく、一緒に悩んでいく、一緒に形をつくっていくということだと思います。例えば外部評価でワークショップ的なことをやったとしても、一応評価という形でやっておいて、それをまた庁内に戻して、それぞれの部署で施策を回していくときにも、例えば市民会議のように、施策単位で、常に市民とともに進捗管理をやっていく、あるいは常にいろいろなアイデアを求めながらやっていくということです。なかなか1回限りで意見を出すことは難しいので、こういった意見を膨らませていくということは、定期的に、施策を回す中で同時に組み込んでいくというのも一案です。これは、私の専門の市民参加という点からすると、まさにそういう形で、市民がもっと関わってくるということは、必要なのです。だから、そういうことも評価プラスアルファということで必要になってくる部分かもしれません。

参考までに、さっきの影響評価の話で、例えば施策評価シートでは1次評価の部分に定量的評価ということで、一応、一定の影響集団等を念頭に置いて、主観的なものをあぶり出す指標と、ある種客観的なものを表す指標が入り交ざる形で、幾つか上がっていますが、その上げ方も多分問われてくるでしょうし、こういったものをまたどういうふうに評価していけばいいのかということが多分問われるかなと思います。さっきの話と絡めて、これはどういうふうにご覧になっていますか。

**【委員】**

影響評価というのは、誰が評価するかによって、随分変わってきます。例えば、このシートは、あくまで担当課の担当者の方レベルで評価した内容になっているので、同じ視点に基づいてこのメンバーで評価すると、必ずそれ以外の影響集団が出てくると思います。ですから、そういう意味でも、皆が同じ物差しでいろいろな集団をあぶり出していくと、その集団にどういう影響があるのか、果たして良いのか悪いのかという部分を洗い出すことによって、それを必要最小限の影響にしましょうとか、もっと伸ばしましょうとか、そのためにはこういう取り組みはどうですかという提案につながります。

**【委員】**

どっちかという、モデル地区での取り組みの評価というレベルですよ。

**【委員】**

そうです。

**【委員】**

施策評価とは違って、机上でできることではないですよ。

**【委員】**

施策の評価もします。政策レベルの評価もすれば、本当にプログラムレベルでの評価もして、いろいろなレベルに使われる手法です。実際に、日本公衆衛生学会がガイ

ドラインをつくっているので、その評価シートを使うということも提案としてはいけるとおもいます。

#### 【委員】

評価の指標ですが、幸福度とか客観指標がたくさんありますが、そういう部分をもっと意識してやるといいのかなと思います。コストとか、いわゆるプロジェクトマネージメントが上手くいっているかということではなくて、それによって、ウェルビーイングな部分の市民の主観がどうなっているかということも、結構、参考になる所はあると思います。そういうのも少し入れておいて、白井だけで完結するのではなくて、評価が上手くいっている市はたくさんあると思うので、そういう所を参考にすれば、一から考えなくてもいいのかなと思います。

#### 【会長】

荒川区とかは、主観的側面と客観的側面というものをかなり連動させています。主観的な部分というのは、市民アンケートと更に連動させてあぶり出すようなことをやっていて、それを評価指標に結びつけているという部分もあるので、そこは非常に参考になると思います。

他にいかがでしょうか。どこまで改善できるかということではありますが、いろいろ気になった点をご指摘いただいて、少しでも来年度の評価での改善に結びつけられればと思いますが。

#### 【事務局】

評価の手法について、今日この場で結論を出すということはなかなかできませんが、今いろいろとご意見をいただきましたので、こちらでも検討したいと思います。

#### 【会長】

いろいろなご意見を頂戴していますので、できる限り、来年度の評価に反映できるように検討していただきたいと思います。

今、出た意見を取りまとめたものを、資料2の13ページに集約する形で入れ込んで、それをもって報告書という形にまとめさせていただければというふうに思います。

市長に提出するということがありますので、今、出していただいた意見の取りまとめについては、私と副会長にご一任をいただければと思いますけれども、よろしいでしょうか。

では、今の議論を組み込んだ形で、最終的な外部評価結果報告書をまとめさせていただきます。

### (3) その他

#### 【会長】

その他ということで、事務局からお願いします。

## 【事務局】

本日もいろいろと本当に貴重なご意見をたくさんいただきありがとうございます。外部評価結果報告書の方は会長と副会長と調整していただいた上で、出来上がり次第、委員の皆さんに送付させていただきたいと思います。

また、来年度の評価の方法については、今後、事務局で検討して案を示しますので、また委員の皆様にご意見をいただきたいと思います。

次回会議の日程は未定ですが、後日、またお知らせしますので、ご了承くださいたいと思います。

## 【委員】

最後に、私は、大山口小学校区でまちづくり協議会的なものを来年度4月1日から立ち上げるのですが、そのときに、今のような少子化問題を考えようかなと考えています。今、放課後子ども教室をやっていますが、お年寄りが19人ぐらいいると思います。1年生30人ぐらいを面倒見ているのですが、月に2回、木曜日だけとなっているので、今後、それを3倍4倍ぐらいに膨らませて、80人ぐらいの体制で、放課後子ども教室を毎週やろうというふうに考えています。地区社会福祉協議会のボランティアをやっていただいている方が60人、70人いますので、その人たちをお願いして、4月1日から小学校の教室を一つ借りて、いろいろなことをやっていこうと思っています。

それと、先ほどから防災について言っていますが、私は防災の倉庫を持っています。80平米でかなりの商品が入っています。本当に自分の自治会が、自分たちだけで守り通せるのかどうかを考えながら増やしてきました。そういうことも含めて、自治会自体が活性化していかないといけないかなと思っています。

有価物の回収も非常に安くなりまして、中国は今、引き取らなくなりました。ということは、白井も自前で何とかしないとイケないだろうというふうに思うわけです。そういうことも考えていきながら、一つ一つが自活できるような形にしていけないとイケません。また、人口が2060年に減ったときに、空き家がものすごく出てくると思いますが、空き家や空き地の対策を市としてどう考えているのかということも聞きたいと思います。

いろいろ聞きたいことだらけですが、本当に人口がそうなったときに、今、災害で家が流されたとかあると思いますが、そういうことは全くなくなります。戦後、人口が1.8倍ぐらいに増えてきて、地面を強化したりして、家を建ててきました。広島の水害というのは、その典型的な例です。今後、人口が減ってくると、そういう所には住宅は建てられませんということを書かないとだめだろうと思います。そういう客観的な目を持って、取り組んでいかないと難しい時代だろうなと思います。

### 【会長】

地域でどんなことができるのかというのは、是非モデルをつくっていただきたいと思っています。

### 【委員】

4月1日から毎週できるような形で、校長先生も非常に期待をしていますので、放課後子ども教室と学童保育をつなげていきたいと思っています。いろいろな形が考えられるだろうとっていて、PTAの意見もいろいろ聞きたいなと思っています。

### 【会長】

まちづくり協議会は多分、そういう場をつくっていくということなのだと思います。ですので、是非モデル的な形で、こういうことがあり得るのだというのを形にして示していただけるといいと思います。

先ほども出ましたように、本当にいろいろな意見をこの審議会の中でも出していただいていますので、来年度は、さらにそれが活かされるような形をつくればいいと思いますので、また引き続き、ご協力をいただければと思います。

## 3 閉会

以上で、第4回総合計画審議会を閉会します。お疲れさまでした。